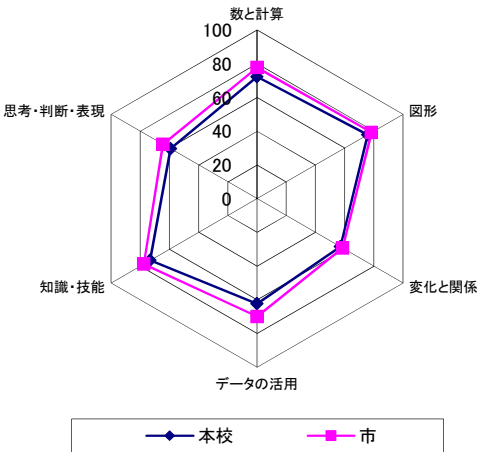


宇都宮市立宝木小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	72.3	77.7	78.6
	図形	75.8	78.4	74.4
	変化と関係	57.0	58.7	53.0
	データの活用	62.4	69.9	57.2
観点別	知識・技能	73.2	77.5	74.0
	思考・判断・表現	59.3	64.5	58.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	本校の平均正答率は、市の平均と比べるとやや低い。 ○真分数×真分数(約分なし)の計算や比較量が基準量の何倍になるかを求める式を選択する問題では、市の平均を上回っている。 ●市の平均と比べてどの問題も約10ポイント低いが、小数第一位÷小数第一位の計算と異分母分子の減法(約分なし)の計算が約12ポイント低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・小数同士の乗法の計算や真分数同士の計算については、定着している児童が多い。小数点の移動や分数同士の約分など、基本的な計算は確実にできるように計算の仕方を児童同士で教え合い、復習しながら、定着を高めたい。 ・小数と分数の計算に課題があることから、朝の学習やAIDリルなどを活用して繰り返し取り組み、計算の仕方を定着させていきたい。
図形	本校の平均正答率は、市の平均と比べるとやや低い。 ○合同な三角形の作図と円の面積を答える問題では、95%近い正答率で市と全国の平均よりも上回っている。 ●2つの角が与えられた三角形の1つの外角を求める問題では、市の平均よりも8.9ポイント下回っている。	・図形の問題は市の平均点を上回るものがあることから、比較的苦手意識なく取り組める児童が多い。一方で、公式が定着していなかったり、計算が途中でずれてしまったりして面積や体積を導き出すことが難しい児童が多い。ICTを活用した授業を行うことで、児童の理解を高め、図形領域の知識技能や活用力を定着させていきたい。
変化と関係	本校の平均正答率は、市の平均と比べるとやや低い。 ○表から面積と人数の割合を求め、どのプールが最も混んでいるかを考察する問題では、市と全国の平均を大きく上回る65.6%であった。 ●速さの単位の関係を理解し、分速を秒速や時速に直す問題では、41.9%と市の平均よりも12.4%と下回っている。	・速さの単位に限らず、長さ、水量、面積、体積など単位の換算を苦手とする児童は多い。低学年、中学年の学習内容についても、年間を通して、繰り返し取り組み、換算の仕方を定着させていきたい。
データの活用	本校の平均正答率は、市の平均と比べるとやや低い。 ●度数分布表を完成させる問題の正答率は市の平均より下回っているものの、他の問題に比べて5.3ポイントとその差が小さい。 ●ヒストグラムの特徴をもとに、平均値付近の記録が一番多いわけではないことを説明する問題の正答率が34.4%と市の平均よりも10.2ポイント低い。	・授業では、体力テストの結果やアンケートの結果などから身近な課題を取り扱い、データや資料に関わることができるようにすることで、それぞれの値の意味を理解できるようにしていきたい。また、平均値の計算や中央値の求め方での計算のミスも見られることから、計算の定着させていきたい。